

付着生物ラーバ情報

1 ラーバの出現と付着状況

直近のラーバ等の出現数は表1のとおりです。

(1) ユウレイボヤ

ラーバは見られていません。

(2) オベリア類(通称:クサ)

クラゲは小湊沖で1.3個/m³見られました。

(3) キヌマトイガイ

ラーバは見られていません。

(4) アミクサ(通称:クサ)

小枝は蟹田沖で1.4個/m³、奥内沖で0.8個/m³、小湊沖で6.3個/m³見られました。

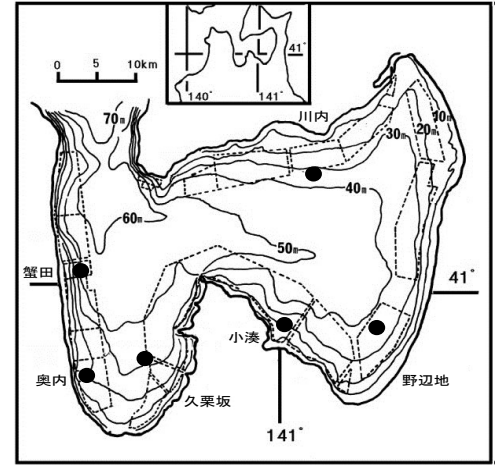


図1 ラーバ調査地点

2 今後の見込み

ユウレイボヤは水温が20℃以下に低下すると産卵しますが、現在、陸奥湾内の中層水温が16～17℃台まで低下したにもかかわらず、依然としてラーバが見られないことから、**分散済みの籠への今秋における付着は少ない可能性**があります。

オベリア類、アミクサが見られ始めましたが、アミクサ小枝の出現は12月以降、オベリア類とキヌマトイガイの付着は年明けになるものと思われま

表1 ラーバ等の出現状況

調査地点	調査月日	ユウレイボヤ	ザラボヤ	オベリア類	アミクサ小枝
蟹田沖	H29.10.19	0.0	0.0	0.0	1.4
奥内沖	H29.10.27	0.0	4.2	0.0	0.8
小湊沖	H29.10.26	0.0	0.0	1.3	6.3
野辺地沖	H29.10.16	0.0	0.0	0.0	0.0

単位: 個体/m³

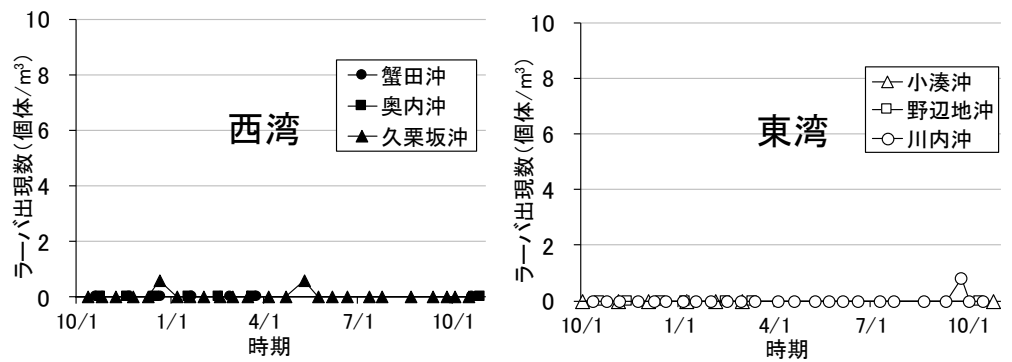


図2 ユウレイボヤラーバ出現数の推移 (平成28年10月～平成29年10月)

3 ユウレイボヤとオベリア類の付着予測

10月～翌年3月までのユウレイボヤ累積ラーバ数(久栗坂)、オベリア類累積クラゲ数(蟹田、奥内、久栗坂)、12月～翌年3月までの青森ブイ水深15m層の平均水温と出荷時期のパールネット1連の付着量の関係を調べたところ、**平均水温が8℃以上であればラーバ(クラゲ)累積出現数が多くても付着量が少ない**ことが分かりました(図3)。

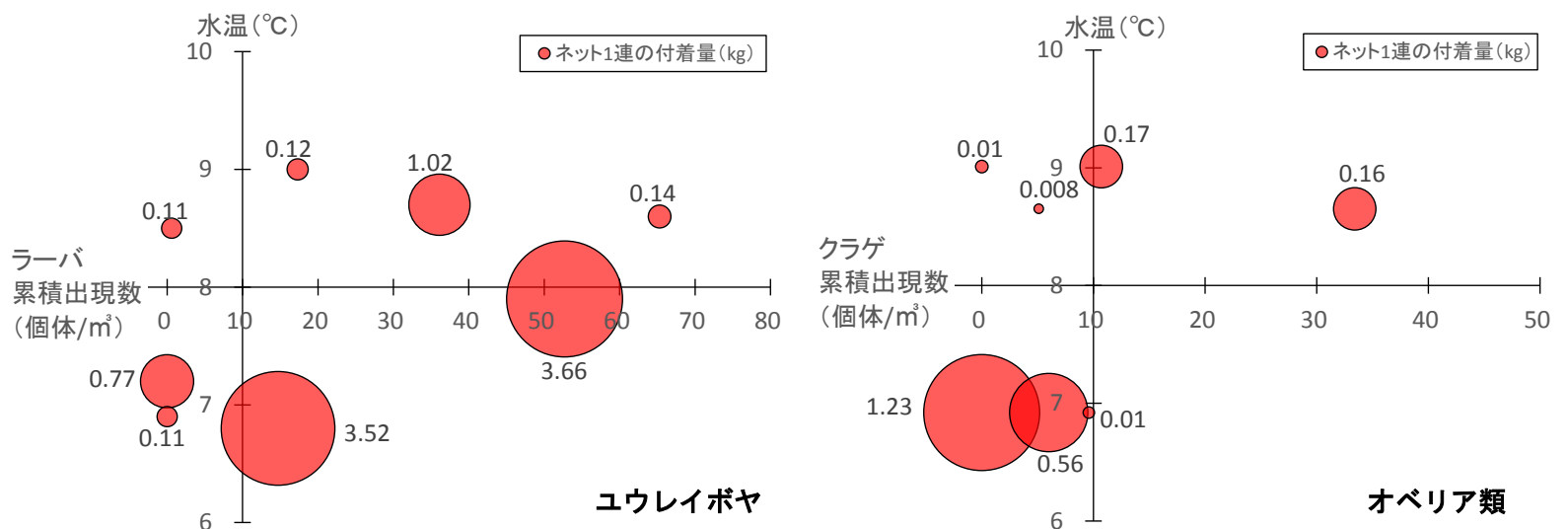


図3 西湾におけるユウレイボヤのラーバ(左図)とオベリア類のクラゲ(右図)の累積出現数、青森ブイ水深15mの平均水温とパールネット1連の付着量の関係(O印の中心はプロット位置、面積は付着量)

